

1 新しきBNP測定試薬「アーキテクト・BNP
2 - JP」の基礎的検討
3

4 ○ 佐久間幸枝、和泉沙希子、川瀬友香、布施義也、
5 中嶋宏介、高木正義、高橋英則（総合病院国保
6 旭中央病院中央検査科）
7

8 【はじめに】当院では平成16年3月より脳性ナトリ
9 ウム利尿ペプチド（以下BNP）の測定を、全自動エ
10 ンザイムイムノアッセイ装置AIA600IIを用い、Eテ
11 スト「TOSOH」II（BNP）（以下AIA）により測定して
12 いる。今回新たに開発されたBNP測定試薬 アーキ
13 テクト・BNP-JP（以下 ARCHITECT）を検討する機
14 会を得、基礎的検討を行ったので報告する。

15 【対象】平成20年7月30日～8月5日に当院中央
16 検査科にBNP測定依頼のあった162例

17 【結果】①同時再現性（n=10）；平均50.75～
18 2055.03pg/ml・CV1.4～2.6%②日差再現性（n=6）；
19 平均56.93～2021.58pg/ml・CV0.9～5.7%③共存物
20 質の影響；干渉チェックAプラスを用いた検討にお
21 いて、溶血Hb 500mg/dlで約10%の低値化傾向を
22 認めたが、乳び、ビリルビンCおよびF、RF等には
23 影響を認めなかった。④相関；従来法であるAIAと
24 の相関の検討では、相関係数、0.9850、 $y=1.6137x-$
25 75.926とARCHITECTが高値傾向を示した。

26 【まとめ】再現性試験では良好な成績が得られた。
27 また、溶血検体で負の影響を受けることが確認でき
28 た。相関の検討では特に高値検体について測定値に
29 差異を認め、最大1.98倍ARCHITECTが高値に測定さ
30 れた。両法ともシオノギ製の抗体を用いているが、
31 測定の差は平均21%あった。解離の原因については、
32 同じシオノギ製の抗体を用いてもエビトープが
33 異なっている可能性や測定原理の差、検量線の設定
34 ポイントの差等が考えられるが、今後乖離の理由を
35 さらに明らかにするための検討を行う予定である。
36

37 連絡先(0479)63-8111 内線5128